

商業教員養成所一覽

目次

一 學年曆	一 丁	得	二十二丁
一 沿革概略	二 丁	一 生徒心得	二十四丁
一 實業學校教員養成規程	三 丁	一 主事	二十五丁
一 商業教員養成所規程	六 丁	一 生徒現員	二十六丁
總則	六 丁	一 東京高等商業學校學生生徒ニシテ實業學 校教員養成規程ニ依ル學費受給者	二十七丁
學科課程	七 丁	一 生徒年級表	二十七丁
學年、學期、休業	八 丁	一 生徒年齡表	二十八丁
入學、在學、退學	十 丁	一 生徒身體檢查統計表	二十八丁
休學	十九丁	一 生徒入學前卒業學校別及府縣別表	二十八丁
試驗、卒業	二十丁	一 卒業生及其就職ノ場所	三十二丁
一 實業學校教員養成規程ニ依ル補給學費		一 卒業生府縣別表	三十六丁
支給手續	二十二丁		

商業教員養成所一覽

學 年 曆

自明治四十一年九月十一日  
至明治四十二年九月十日

同	四十二年一月七日	同	第一學期始
同	四十二年一月八日	同	休業秋季皇靈祭
同	四十二年一月三十日	同	同(神嘗祭)
同	十二月廿五日	同	同(天長節)
同	十二月廿四日	同	同(新嘗祭)
同	十一月廿三日	同	第一學期終
同	十一月十七日	同	冬期休業始
同	九月廿三日	同	冬期休業終
同	四月十一日	同	第二學期始
同	三月廿一日	同	休業孝明天皇祭
同	二月十一日	同	同(紀元節)
同	三月廿一日	同	同(春季皇靈祭)

同	三月卅一日	第二學期終
同	四月一日	春季休業始
同	四月三日	休業(神武天皇祭)
同	四月七日	春季休業終
同	四月八日	第三學期始
同	七月十日	第三學期終
同	七月十一日	夏季休業始
同	九月十日	夏季休業終
同		學年終

沿革概略

本所ハ明治三十二年<sup>三</sup>文部省令第十三號實業學校教員養成規程ニ依リ商業學校及商業補習學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スルノ目的ヲ以テ高等商業學校内ニ設置シ同校長之ヲ管理ス、五月高等商業學校教授水島鐵也主任ヲ囑託セララル、同月規則ヲ制定ス、其要生徒ハ師範學校中學校若クハ甲種以上ノ商業學校卒業生ニシテ

地方長官ノ推薦セル者ノ中ヨリ選抜シ若シ定員ニ滿タサルトキハ一般ニ募集シ試験ニ合格セルモノニ就キ之ヲ選拔ス、修業年限ハ二箇年トシ生徒在學中ハ之ニ學資ヲ補給ス、九月授業ヲ開始ス○同三十五年一月水島鐵也主任ヲ辭シ高等商業學校教授東夷五郎主任ヲ囑託セララル、四月東京高等商業學校ニ本所ヲ附設セララル、同月東京高等商業學校教授東夷五郎主任ヲ命セララル、同月更ニ實業學校教員養成規程ヲ發布セララル隨テ本所規程ヲ制定ス、其ノ要、舊規則ニ同シ十月規程中學資補給ノ章ヲ改正ス○同三十六年一月主事東京高等商業學校教授東夷五郎神戶高等商業學校教授ニ任セラレ、二月東京高等商業學校教授佐野善作主事ヲ命セララル○四十年二月規程中試験及卒業ノ章ヲ改正ス、十二月規程中ヲ改正ス是時休學ノ章ヲ設ク

實業學校教員養成規程(本所ニ關スル分抄)

文部省令第九號 (明治三十五年四月一日) 明治三十八年文部省令第十六號及同前九年同省令第十四號ヲ以テ條項改正  
實業教育費國庫補助法第七條ニ基キ實業學校教員養成規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 東京帝國大學農科大學本科若クハ實科東北帝國農科大學本科農學實科  
 土木工學科林學科水產實科官立實業專門學校ノ學生生徒ニシテ卒業ノ後實業  
 學校ノ教職ニ従事スヘキ者竝東京高等商業學校附設商業教員養成所ノ生徒ニ  
 ハ學資ヲ補給スルコトアルヘシ  
 補給スヘキ金額ハ一箇月六圓以內トス

第二條 前條ニ依リ學資ノ補給ヲ受ケタル者ハ卒業ノ日ヨリ學資ノ補給ヲ受ケ  
 タル年限ニ一箇年ヲ加ヘタル期間文部大臣ノ指定ニ依リ實業學校ノ教職ニ従  
 事スヘキ義務ヲ有ス但必要ノ場合ニ於テハ文部大臣ハ他ノ教職ニ従事スルノ  
 義務ヲ負ハシムルコトアルヘシ

第二條ノ二 學資ノ補給ヲ受ケタル者ニシテ前條ノ義務期間内ニ於テ私費ヲ以  
 テ學校ニ入學シ若ハ外國ニ留學セントスル者アルトキハ文部大臣ハ時宜ニ因  
 リ之ヲ許可スルコトアルヘシ  
 前項ニ依リ許可ヲ受ケタル者ノ當該學校ニ在學中若ハ外國留學中ノ期間ハ前  
 條ノ義務期間ニ算入セス

第二條ノ三 第二條ノ義務期間内ニ於テ文部大臣ノ指定ヲ受ケサルカ爲任意就  
 職シタル者ハ其ノ旨直ニ文部大臣ニ届出ツヘシ其ノ就職ヲ罷メ又ハ之ヲ變更  
 シタルトキ亦同シ

前條ノ許可ヲ受ケタル者學校ヲ卒業又ハ退學シ若ハ歸朝シタルトキハ直ニ文  
 部大臣ニ届出ツヘシ

第三條 學資ノ補給ヲ受クル者半途ニシテ退學シ若ハ第二條ノ義務ヲ盡ササル  
 トキ又ハ第二條ノ二第一項ノ許可ヲ受ケスシテ入學若ハ留學シタルトキハ補  
 給シタル學資ヲ償還スヘキモノトス但文部大臣ハ事情ヲ酌量シテ其全部又ハ  
 一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

第三條ノ二 第二條ノ規定ニ依リ實業學校及其ノ他ノ教職ニ従事スル者ニ其ノ  
 義務期間内ニ於テ轉任退職若ハ休職ヲ命セントスルトキハ事由ヲ具シ豫メ文  
 部大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

第四條 第一條ノ學生生徒ノ員數及各養成所ニ募集スヘキ員數ハ毎年文部大臣  
 之ヲ定ム

附則

- 第五條 本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ施行ス
- 第六條 明治三十二年文部省令第十三號實業教員養成規程ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス但シ該規程ニ依リ現ニ商業教員養成所ニ在學スル生徒ハ東京高等商業學校附設商業教員養成所ノ生徒タルモノトス
- 前項ノ生徒及東京高等商業學校ノ學生生徒ニシテ從前ノ規程ニ依リ學資ノ補給ヲ受ケタル年限ハ本令第二條ノ年限中ニ算入ス
- 第七條 明治三十二年文部省令第十三號實業學校教員養成規程ニ依リ義務ヲ有スル卒業者ニ關シテハ尙從前ノ規程ニ依ル

商業教員養成所規程

第一章 總則

- 第一條 本所ハ實業學校教員養成規程ニ依リ商業學校及商業補習學校ノ教員タルヘキモノヲ養成スルヲ以テ目的トス

- 第二條 本所ノ修業年限ハ貳箇年トス
- 第三條 本所ハ授業料ヲ徵收セス
- 第四條 本所ノ生徒ニハ在學中學資ヲ補給スルコトアルヘシ
- 第五條 生徒卒業後ハ學資ノ補給ヲ受ケタル年限ニ壹箇年ヲ加ヘタル期間文部大臣ノ指定ニ依リ實業學校ノ教職ニ從事スヘキ義務アルモノトス
- 第六條 生徒心得ハ校長ノ定ムル所ニ依ル
- 第二章 學科課程
- 第七條 學科課程ハ左表ノ如シ

倫理	商業	商業	商業	學科	學年	第一	第二
				學科	學年	第一	第二
倫理	商業	商業	商業	學科	學年	第一	第二
文	算術	算術	算術	學科	學年	第一	第二
地理	地理	地理	地理	學科	學年	第一	第二
—	—	—	—	學科	學年	第一	第二
—	—	—	—	學科	學年	第一	第二

時	體	教	教	英	商	商	商	經	商	簿	商
間			授	育	業		業	濟			業
合					實						歷
計	操	法	學	語	踐	法	學	學	品	記	史

第三章 學年、學期及休業

三三三 三 一五 七二二六 一

三三三 三一 四五四二二二三 二

第八條 學年ハ九月十一日ニ始マリ翌年九月十日ニ終ル  
 第九條 學年ヲ分チテ三學期トス第一學期ハ九月十一日ヨリ十二月二十四日ニ至リ第二學期ハ翌年一月八日ヨリ三月三十一日ニ至リ第三學期ハ四月八日ヨリ七月十日ニ至ル

第十條 年中休業左ノ如シ

但休業中ト雖モ教員ノ見込ニ依リ或學科ノ補習又ハ實業ノ調査ヲ命スルコトアルヘシ

- 一 毎日曜日
- 一 秋季皇靈祭
- 一 神嘗祭
- 一 天長節
- 一 新嘗祭
- 一 孝明天皇祭
- 一 紀元節

一 春季皇靈祭  
一 神武天皇祭

一 春季休業 四月一日ヨリ  
同月七日ニ至ル

一 夏季休業 七月十一日ヨリ  
九月十日ニ至ル

一 冬季休業 十二月二十五日ヨリ  
一月七日ニ至ル

#### 第四章 入學、在學、退學

第十一條 本所ハ學年ノ始ニ於テ入學ヲ許ス

第十二條 師範學校、中學校若クハ甲種以上ノ商業學校卒業生ニシテ地方長官ニ於テ身體壯健、品行方正且ツ教員タルノ志望確固ナルコトヲ認メテ推薦シタル者ハ校長ニ於テ試験若クハ其他適宜ノ方法ニ依リテ選抜ヲ行ヒ入學ヲ許可ス

第十三條 前條ニ依ル推薦生募集人員ニ滿タサルトキハ年齡滿十七年以上ニシテ身體壯健、品行方正、志望確固、左ノ試験ニ合格セル者ニ就キ選抜ヲ行ヒ入學ヲ許可ス

但學科ノ試験程度ハ中學校卒業ノ程度トス

一 和漢文 訓點、解釋

一 書法 楷、行、草三體

一 作文 公私用文及記事、論說文ノ内

一 數學 算術、代數、幾何(平面、立體)、平面三角法

一 地理 内外國

一 歷史 内外國

一 圖書 自在書、用書

一 物理

一 化學

一 博物

一 英語 書取、會話、反譯

一 體格

第十四條 第十二條ニ依リ地方長官ニ於テ生徒ヲ推薦スル場合ニハ左ノ諸項ニ掲クル書類ヲ添付スヘキモノトス

一 入學願書 (甲號書式)

一 履歷書 (乙號書式)

一 推薦生ノ卒業セシ學校ニ於ケル該卒業試験成績表

一 體格證明書(丙號書式)

第十五條 第十三條ニ依ル入學志願者ハ甲號及乙號ノ書式ニ倣ヒ入學願書並履歷書ヲ差出スヘシ

第十六條 募集スヘキ生徒ノ員數及期日等ハ其都度公告スヘシ

第十七條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ保證人二名ヲ立テ丁號書式ノ誓書ヲ認メ其年九月十日迄ニ本校ヘ提出スヘシ

第十八條 保證人ハ俱ニ丁年以上ノ男子ニシテ東京市内ニ於テ一家ヲ立テ生徒ノ身分ニ關シ一切引受クルニ足ルヘキ關係及相應ノ資産ヲ有スル者ニ限ル

第十九條 保證人死去若クハ前條ノ資格ヲ失ヒタルトキハ速ニ他人ヲ以テ之ニ代ヘ更ニ誓書ヲ出サシムヘシ又保證人旅行セントスルトキハ其都度代理人ヲ定メ其旨届出ツヘキハ勿論轉居或ハ改印等ヲナシタルトキモ亦速ニ届出ツヘ

シ

第二十條 入學ノ許可ヲ得ルト雖モ第十七條ノ成規ニ違フトキハ入學ノ許可ヲ取消サルルモノトス

第二十一條 生徒若シ學業ヲ怠リ又ハ品行修ラス若クハ疾病等ノ故ヲ以テ成業ノ見込ナシト認ムルトキハ退學セシムヘシ

甲號書式(用紙美濃紙ニツ折一通)

入學願書

私儀商業教員養成所へ入學志願ニ付御許可相成度別紙履歷書相添此段相願候也

宿所

在籍地族稱職業

(某子弟又ハ被後見人等)

年 月 日

氏 名 印

何年何月何日生



東京高等商業學校長何某殿

乙號書式(用紙前同斷一通)

學業履歷書

學業

一年月日何地官公私何學校ニ入り何學科何等級修業或ハ全學科卒業又ハ何

某ニ從ヒ何學何年間受業用書何々

(卒業證書ヲ有スルモノハ其寫ヲ添フヘシ)

賞罰

一年月日何所ニ於テ何賞罰ヲ受クル等

以上

年 月 日

氏 名

丙號書式(用紙前同斷一通)

體格檢査證

住所

本籍族稱(戶主ニ非サレハ誰子弟)

氏 名

何年何月何日生

體 格

身 長

體 重

常時

胸圍 充盈 以上ノ差

空虛

中心視力左右

色盲

眼病

聽 力左右

痘

疾病

検査年月日

住所

醫師 氏

名 印

體格検査證記載心得

- 一 體格検査ノ度衡器ハ度量衡法ノ正準ニ適シタルモノヲ使用シ度ハ「センチメートル」又ハ曲尺ノ寸衡「キログラム」又ハ貫ヲ以テ一位トス
- 一 體格ハ甲乙丙ノ三種ニ區別シ強健ノ者ヲ甲トシ中等ノ者ヲ乙トシ虛弱又ハ疾病アル者ヲ丙トス
- 一 身長ハ正シキ體勢ニ於テ測定ス
- 一 體重ハ裸體トシテ秤量ス
- 一 胸圍ハ兩上肢ヲ鉛直ニ垂レテ自然ノ位置ニアラシメ乳頭ノ水平線ニ於テ測定ス
- 一 中心視力ハ二十尺又ハ六メートルノ距離ニ於テ「スケルレン」氏試視力表ノ

二十號(又ハD六)ヲ明視シ得ル者ヲ正視トス近視若クハ遠視ニ於テハ同上ノ距離ニ於テ同上ノ二十號(又ハD六)ヲ明視シ得タル眼鏡ノ番號ヲ記載スヘシ但シ左右其度ヲ異ニスルモノハ各之ヲ記載スヘシ  
 色盲ハ其有無及何色盲ナルカヲ記載スヘシ  
 眼病ハ眼ニ於ケル疾病ノ有無及病名ヲ記載スヘシ

- 一 聽力ハ懷中時計ヲ以テ左右兩耳ニ就キテ其聽取ノ最遠距離ヲ測定シ「センチメートル」ヲ以テ記載スヘシ
- 一 痘ハ天然痘濟若シクハ種痘濟何種毎回善感不善感又ハ不感ノ旨ヲ記載スヘシ

但種痘ニ於テハ善感不善感不感ニ拘ハラズ再末種痘ノ年月日ヲ附記スヘシ

- 一 疾病ハ全身ニ於ケル疾病ノ有無病名又ハ畸形等ヲ記載スヘシ
- 丁號書式(用紙前同斷一通收入印紙貼用)

誓 書

私儀今般商業教員養成所へ入學御許可相成候ニ付テハ御規則ヲ遵守シ專心勉勵可仕又卒業ノ後ハ御規定ノ義務ニ服シ可申候仍テ誓書如此候也

本籍族稱職業

(某子弟又ハ被後見人等)

年月日

氏名印

何年何月何日生

宿所 東京市何區町番地

前書之趣相違無之ニ付拙者共保證人ニ相立テ本人ニ係ル一切ノ事件引受可申仍テ保證如斯候也

但貴所御規則ハ總テ承知致シ候也

本籍族稱職業

年月日

保證人 氏名印

何年何月生

宿所

本籍族稱職業  
保證人 氏

名 印

何年何月生

宿所

東京高等商業學校長何某殿

前書保證人某ハ丁年以上ニシテ當區内ニ於テ一家ヲ立ツル者ニ相違無之候也

年月日

何區長印

第五章 休學

第二十二條 生徒疾病又ハ避クヘカラサル事故ニ因リ滿二箇月以上脩學シ能ハスト認ムルトキハ保證人連署ヲ以テ校長ニ願出テ其許可ヲ得テ滿壹箇年以内休學スルコトヲ得其疾病ニ罹リタルモノハ醫師ノ診斷書ヲ添フルコトヲ要ス但シ其疾病平癒シ又ハ事故止ミタルトキハ休學期間内ト雖其旨届出テ就學スルコト得

第二十三條 生徒ノ陸海軍ノ現役ニ在ル者及召集中ノ者ハ校長ノ許可ヲ得テ其

間休學シ現役又ハ召集終レハ直ニ其原級ニ復スルコトヲ得

第六章 試験及卒業

第二十四條 試験ヲ分チテ學年試験及學期試験ノ二種トス

學年試験ハ其學年中ニ履脩シタル學科ニ就キ學年末ニ於テ之ヲ施行ス

學期試験ハ第一學期末又ハ第二學期末ニ於テ各課目ニ就キ一回之ヲ施行ス

第二十五條 學科目ニ依リ便宜之ヲ數課目ニ分チ其成績ヲ定ムルコトアルヘシ

第二十六條 各學課目學年ノ成績ハ學年試験ノ成績ト學期試験ノ成績トヲ斟酌

シテ之ヲ定ム

第二十七條 學年ノ成績ハ其優劣ニ依リ之ヲ甲乙丙丁ノ四等ニ區別ス

學年ノ成績丙以上ヲ得タル者ヲ及第トシ丁ヲ得タル者ヲ落第トス

第二十八條 商業文、英語及體操ハ平常ノ成績ヲ以テ學期試験ノ成績ニ代フルコトヲ得

第二十九條 學期試験ニ缺席シタル者ハ特ニ校長ノ許可ヲ經ルニアラサレハ學年試験ヲ受クルコトヲ得ス

第三十條 學年試験ニ缺席シ追試験ヲ受ケントスル者ハ其試験期日内ニ其旨ヲ願出ツルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ學期試験ノ成績ト平常ノ勤惰トヲ審査シテ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第三十一條 卒業者ニハ卒業證書ヲ授與ス

卒業ノ席次ハ各學年ノ成績ヲ勘合シ其優劣ニ依リ之ヲ定ム

實業學校教員養成規程ニ依ル補給學資支給手續

第一條 明治三十五年文部省令第九號第一條ノ補給學資ハ毎月二十五日(休日ナク)之ヲ支給ス月ノ央ニ於テ學資ノ支給ヲ止メタルトキハ前項ノ支給日ニ拘ラズ其際支給ス

第二條 農業教員養成所、工業教員養成所、商業教員養成所及水産講習所水産教員養成科生徒ハ入學ノ日ヨリ其他ノ學生生徒ハ誓書提出ノ日ヨリ學資ヲ支給ス

第三條 疾病ニ依リ引續キ缺課スルコト六十日ヲ踰ユル者又ハ私事ノ故障ニ依

リ引續キ缺課スルコト二週日ヲ踰ユル者ハ其翌日ヨリ缺課中學資ヲ支給セス  
校則ニ依リ休學ノ許可ヲ受ケタル者若クハ停學ニ處セラレタル者ハ其休學停  
學中ハ學資ヲ支給セス

第四條 夏期休業中ハ學資ヲ支給セス但シ夏期休業中ト雖學科ノ補習又ハ實業  
ノ調査ヲ命セラレタルトキハ其間學資ヲ支給ス

第五條 學資ヲ補給スヘキ日數一箇月ニ滿タサルトキハ其月ノ現日數ニ依リ日  
割計算ヲ以テ之ヲ支給ス

前項日割計算ノ場合ニ於テ錢位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ切捨ツルモノ  
トス

### 東京高等商業學校學生生徒ニシテ實業學校 教員養成規程ニ依ル學資受給者心得

第一條 學生生徒ニシテ實業學校教員養成規程ニ依リ學資ノ補給ヲ受クル者ハ  
左ノ書式ニ依リ誓書ヲ差出スヘシ

印紙

誓書

私儀今般實業學校教員養成規程ニ依リ學資ノ補給相受ケ候ニ付テハ御規則  
ヲ遵守シ専心勉勵可仕又卒業ノ後ハ御規定ノ義務ニ相服シ可申候依テ保證  
人連署誓約如件

年月日

東京高等商業學校何科生

本人 氏 名 印

住所族籍

保證人 氏 名 印

同

保證人 氏 名 印

東京高等商業學校校長何某殿

第二條 學資ノ補給ヲ受ケタル者半途ニシテ退學シ若ハ實業學校教員養成規程  
第二條ノ義務ヲ盡ササルトキ又ハ本校規則第十九條乃至第二十一條ニ依リ處  
分セラレタル者ハ補給金ヲ償還スヘキモノトス

學資補給受給者心得

第三條 本人若シ前條ノ償還ヲ怠リタルトキハ保證人ニ於テ之ヲ償還スヘキモノトス

生徒心得

第一條 忠孝ヲ旨トシ本分ヲ重シ義務ヲ守リ人ニ接スルニ温良謙讓事ヲ執ルニ誠實果敢以テ真正ノ教育者タルヘキ性格ヲ養成スヘシ

平素攝生ニ注意シ身體ノ強健ヲ圖リ以テ快活ノ精神ト進取ノ氣象トヲ養成スヘシ

第二條 常ニ教室ノ神聖ナルヲ思ヒ秩序ヲ重シ専心以テ學術ヲ習得スルヲ勉ムヘシ

長上ニ對シテ敬禮ヲ行フヘキハ勿論學生生徒相互ノ間ニ於テモ亦禮讓ヲ貴フヘシ

第三條 登校ノ節ハ制服制帽ヲ著用スヘシ

第四條 放課ノ時間ト雖靜肅ヲ旨トシ苟モ喧噪ノ行爲アルヘカラス

第五條 校内ニ在リテハ所定ノ場所以外ニ於テ飲食喫烟スヘカラス

第六條 病氣其ノ他ノ事故ニヨリ缺席セントスルトキハ其ノ理由ヲ記シタル届書ヲ出スヘシ其ノ缺席二週日以上ニ及フトキハ保證人ノ連署ヲ要ス但シ病氣ノトキハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

第七條 生徒又ハ保證人ニシテ氏名ヲ改メ又ハ轉籍轉居シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第八條 校内ニ於テ事ノ何タルヲ問ハス許可ナクシテ猥ニ會同スヘカラス

第九條 凡ソ告示ハ之ヲ掲クルノ日ヨリ一般ニ知了シタルモノト認ムルヲ以テ常ニ之ニ注意スヘシ

第十條 學校ノ器物又ハ圖書ハ專ラ鄭重ニ之ヲ取扱フヘシ

若シ過チテ汚損又ハ亡失シタルトキハ直ニ其旨ヲ届出テ處置ヲ受クヘシ

第十一條 諸規程ニ悖戻シ若ハ長上ノ命令訓誡ニ從ハサル者ハ各其ノ情狀ニ照シ處罰ヲ加フヘシ

主事

東京高等商業學校教授 佐野善作

東京府平民

生徒現員

第二年生 (二十八人)

山手官藏	福岡	高橋福三	岐阜	楠間龜楠	和歌山	長谷川正致	千葉	水口庄三郎	德島	櫻井吉雄	茨城	玉木勝次郎	德島	大和田誠壽	福島	加藤喜平	岐阜	眞下紀太郎	群馬	下妻貞雄	新潟
------	----	------	----	------	-----	-------	----	-------	----	------	----	-------	----	-------	----	------	----	-------	----	------	----

(明治四十一年十月二十日現在)

武田住太郎	愛媛	橋本正路	兵庫	北里善從	熊本	西藤杉松	滋賀	山崎清記	山口	大山綱志	鹿兒島	川上準一	德島	富中參三郎	和歌山	堀江彦太郎	愛知	萩原駒藏	滋賀	久保田敬太郎	新潟	澁谷政秀	富山
-------	----	------	----	------	----	------	----	------	----	------	-----	------	----	-------	-----	-------	----	------	----	--------	----	------	----

福島新藏	熊本	羽賀鶴松	福島	渡邊進	茨城	金野榮	岩手
------	----	------	----	-----	----	-----	----

第一年生 (二人)

谷貝清一	岐阜	重藤一郎	福岡
------	----	------	----

東京高等商業學校學生生徒ニシテ實業學校  
教員養成規程ニ依ル學資受給者

東京高等商業學校本科第三年生 相馬堅次 東京  
同 宮司謙次 靜岡

生徒年級表

(明治四十一年十月廿日調)

種別	人員
第一年生	二八
第二年生	二八

生徒年齢表

(明治四十一年十月廿日調)

種別	最高	最低	平均
第一	二九、一〇月	二〇、〇九月	二四、一二月
第二	二八、〇六月	二八、〇六月	二八、〇六月

生徒身體検査統計表

(明治四十一年四月検査)

學級	検査目		胸圍盈虚ノ差	人員
	身長	體重		
一年生	最大	一七、三三三 <sup>分</sup>	二三三 <sup>分</sup>	三〇
	最小	一一、三六〇		
平均	五、五八	一四、一〇六	一七	
	五、三三		二五	

平均ハ最大最小ノ平均ニアラスシテ各級人員ノ平均ナリ

生徒入學前卒業學校別及府縣別表

(明治四十一年十月廿日調)

道府縣	師範學校卒業生	中學校卒業生	商業學校卒業生	小計
北海道				二
東京都				一
大阪府				一
兵庫県				一
長崎縣				一
新潟縣				一
群馬縣				一
千葉県				一
茨城県				一
栃木縣				一
海峽				一
府縣別				計



福 高 愛 香 德 和 山 廣 岡 島 鳥 富 石 福

歌

岡 知 媛 川 島 山 口 島 山 根 取 山 川 井

二 一 三 二

二 一 三 二 一

秋 山 青 岩 福 宮 長 岐 滋 山 靜 愛 三 奈

田 形 森 手 島 城 野 阜 賀 梨 岡 知 重 良

二 二 三 一

一 二 三 二 一

大分 佐賀 熊本 鹿島 沖繩 合計

二二 一 二

八

二九

二九

卒業生及其就職ノ場所

明治三十四年卒業(二十三人)

神戶高等商業學校 小野 十郎 東京  
 市名古屋商業學校 村 瀬 圭 愛知  
 滋賀八幡商業學校 北川 勝次郎 滋賀  
 文部省 泉屋 清次郎 石川

三井物産合名會社(大阪支店) 近藤 達二郎 京都  
 島根縣立商業學校 田 中 融 島根  
 死亡 伊 藤 資 生 宮城  
 山口改 瀬 戸 口 竹 二 佐 賀  
 市立福岡商業學校 增 澤 寅 次 郎 新潟

明治三十六年卒業(二十七人)

群馬縣 高崎市立甲種商業學校 松村 明 敏 栃木  
 神戶商品陳列所 打田 喜代太郎 三重  
 住友銀行 白 井 源 吉 鳥 取  
 靜岡縣 濱松町立濱松商業學校 鈴木 新次郎 靜岡  
 兵庫縣 神戶商業學校 岩 田 眞 一 福 井  
 敦賀縣 敦賀商業學校 織田改 福 士 德 平 巖 手  
 滋賀縣 八幡商業學校 足 達 丑 六 高 知  
 愛媛縣 松山商業學校 高 山 經 慶 愛 媛  
 高田商會(大阪支店) 長 田 捨 藏 兵 庫  
 市名古屋商業學校 寄 田 龍 彦 愛 知  
 市高松商業學校 井 上 廣 太 郎 香 川  
 市立宇都宮商業學校 根 岸 近 仁 新 潟  
 三重縣 四日市商業學校 加 藤 耕 福 井  
 市立神戶商業補習學校 松 本 喜 一 富 山

熊本商業學校 村 瀬 玄 愛 知  
 長野縣 長野市立甲種商業學校 九 山 辨 三 郎 長 野  
 東京 東京商業補習夜學校 川 村 瓊 一 東 京  
 銀行專修所(天津) 加 藤 子 郎 靜 岡  
 私立星商業學校 野 田 益 太 郎 兵 庫  
 長野縣 小諸商工學校 桑 田 仙 之 助 兵 庫  
 市立岐阜商業學校 會 我 智 道 靜 岡  
 市立靜岡商業學校 黑 川 善 一 東 京  
 北海道 釧路商館商業學校 小 室 洵 一 栃 木  
 市立金澤商業學校 早 藤 石 太 郎 福 井  
 京都市立商業學校 松 尾 慶 次 郎 京 都  
 靜岡縣 濱松町立濱松商業學校 市 川 友 三 郎 靜 岡

卒業生及其就職ノ場所

增田屋(新潟出張店)

三井物産合名會社仁川支店

岡山縣立商業學校

市立甲府商業學校

死亡

門司高等小學校

茨城縣立商業學校

私立大阪商業學校

釜山公立商業學校

愛媛八幡濱商業學校

縣立廣島商業學校

縣立尾道商業學校

追 試 驗

市立仙臺商業學校

森 千代松 愛知

鷺見基助 岡山

岩林喜之助 兵庫

金山永三郎 島根

吉田茂太郎 香川

小 瀧 勝 香川

宮本實藏 熊本

村上乙彦 熊本

北山喜一 大分

川島馬太郎 高知

高木脩吉 福岡

河地大輔 山口

岩野由岐太 德島

明治三十八年卒業(二十六人)

神奈川縣橫濱商業學校

大倉商業學校

廣島縣立商業學校

合名會社三井銀行

茨城縣立商業學校

熊本縣立商業學校

市立海星商業學校

富山縣師範學校

京都市立商業學校

島根縣立商業學校

群馬縣立甲種商業學校

市立福岡商業學校

飯田豐次郎 富山

長野 廉二 岡山

森 富次郎 滋賀

竹本節藏 廣島

石川知太郎 東京

柴山清作 栃木

近藤英三 德島

松田喜三郎 三重

川尻改 吉永專吉 三重

廣田嘉一 愛媛

山本廉二郎 島根

宮島賢治郎 千葉

平和長之助 島根

明治四十年卒業(二十九人)

市立高岡商業學校

京都市立商業實修學校

山形縣飽海郡酒田尋常高等小學校

岡山縣岡尋常高等小學校

市立福岡商業學校

縣立廣島商業學校

北海道師範學校

私立大阪商業學校

香川縣高松市立商業學校

群馬縣師範學校

靜岡縣沼津商業學校

岐阜縣師範學校

長崎縣市立長崎商業學校

瀨谷佐次郎 福岡

勝田 梧郎 茨城

梶原 壽一 愛媛

水口音三郎 德島

村田長太郎 福井

藤田 政市 德島

岩瀨 脩治 千葉

竹下長之 島根

佐藤善次郎 宮城

江渡哲太郎 青森

貞家喜三郎 愛知

稻葉 鶴次 靜岡

辻 文八 長崎

市立熊本縣立商業學校

兵役

靜岡縣市立靜岡商業學校

東京帽子株式會社

兵役

新潟縣立商業學校

市立岐阜商業學校

茨城縣立商業學校

新潟縣立商業學校

宮崎縣北縣郡都立商業學校

愛媛縣立八幡濱商業學校

橫濱正金銀行(東京支店)

香川縣立商業學校

谷口實次 愛媛

唯野真琴 福島

石井清之助 三重

鹽田近太郎 香川

安田久之助 岐阜

伊藤 最一 香川

早川小三郎 神奈川

諏訪原義衛 千葉

松田新太郎 靜岡

住登勝藏 德島

吉田光藏 德島

篠澤春太郎 愛媛

栗原重康 福井

齋藤晴治郎 香川

道	府	縣	自明治三十四年 至同三十八年卒業	同 四十年卒業	合 計		
北海道	府	縣	久留米久留米商業學校 青森市立商業學校 大阪府師範學校 長野縣小諸商工學校 佐賀縣西松浦郡立伊萬里商業學校 石川金澤商業學校 滋賀縣長濱尋常高等小學校 私立器商業學校 敦賀町立商業學校	楠木音次郎 三重 室井收 星 理 作 福島 內田 德 彥 愛知 岩間 茂 次郎 巖手 江口 恕 一 佐賀 山口 泰 藏 東京 喜多野 常太郎 和歌山 西村 義 郎 京都 倉本 進 千葉	福國縣嘉穗郡飯塚商業補習學校 大阪府私立成器商業學校 鹿兒島市立鹿兒島商業學校 仁川商業夜學校 東京市立實田尋常高等小學校 仁川居留民團立仁川尋常高等小學校 靜岡縣沼津町立沼津商業學校	山本 規 福國 太田武三郎 滋賀 鈴木源 德 東京 高津 範 千葉 小黒省三 福島 依知川 治 千葉 飯田 啓 三 愛知	合計 百〇五人
			同	同	同	計	

三十六

卒業生府縣別表

道	府	縣	自明治三十四年 至同三十八年卒業	同 四十年卒業	合 計	
北海道	府	縣	東京 京都 大阪 川 庫 崎 湯 玉 馬 葉 城 木 良 重	四 二 一 四 二 二 三 四	二 一 一 四 一 一 一 二	六 三 一 六 二 一 四 一 三 六
			東京 京都 大阪 川 庫 崎 湯 玉 馬 葉 城 木 良 重	四 二 一 四 二 二 三 四	二 一 一 四 一 一 一 二	六 三 一 六 二 一 四 一 三 六

卒業生府縣別表

三十七



	熊宮鹿沖			
	本	崎	島	繩
合				
兒				
計				
	二			七六
				二九
	二			一〇五